

正確なテーブルレポート

ゲームをスムーズに運営するためには、一緒によりよいゲーム作りを行う仲間である「テーブルオフィシャルズ」との協力が欠かせません。ゲームで起きたことを正確に記録し管理していくためにも、テーブルオフィシャルズと積極的にコミュニケーションをとり連携していきましょう。

そのために本年度は、「**正確なテーブルレポート**」を意識して取り組んでいきましょう。

（１）テーブルオフィシャルズ（TO）との連携、協力

TOとは常にコミュニケーションをとります。何か困っていることがないか、わからないことはないか、審判が気を配り声をかけることでミスが減り、お互いに安心してゲームを進めていくことができます。

（２）テーブルレポートのポイント

TOがレポートを受けられる状態か、急いだり、焦ったりしていないかなど、TOの状況を把握してからレポートを行います。何かテーブルで問題が起きていたり、TO間で別のことを確認しているときに審判がテーブルレポートを終えてしまうと、誰のファウルなのか、得点が入ったのか伝わらずにミスにつながります。慌てずに、落ち着いた状態でテーブルレポートを行います。

①スコアラーとアイコンタクトを取ってから ②声を使ってレポート

最も重要なことは自身の判定がスコアラーにはっきりと正しく伝わることです。

シグナルは、**顔の高さ**で示します。特に、プレーヤーの番号は、スコアラーから見えやすいように体から離し、必ず声を使って示します。

※顔の高さ→自身の顔の前に指がかぶらないように少し肘を開くイメージ



トレイルにおけるレフェリーディフェンスの理解

正確な判定を下すためには、レフェリーするものを明確にする必要があります。
ディフェンスが見えるポジションを取り、イリーガルなアクションに注目してレフェリーします。
本年度は、「**トレイルにおけるレフェリーディフェンスの理解**」に意識をもって取り組んでいきましょう。

間違った位置取り



● オンボール時、**インサイドアウト**に近いポジションでディフェンスを見ていると次のプレー（ショット、ドライブ）をカバーできなくなる。ただしボールの位置がサイドラインに近くスペースがないときは、コート内にポジションを取ることもある。

図のように、正しいポジションに移動したとしても、すでに次のプレーに移っているために正しい判定ができなくなるので、十分なタイミングをもってポジションアジャストする。リードオフィシャルがミッドラインを越えて右に位置していない場合は、特に注意しなければならない。

正しい位置取り



- オンボール時、体の角度を45°にし、**アウトサイドイン**でディフェンスを見ることが出来るポジションをとり、プレーに合わせ、予測し、十分なタイミングをもってポジションをアジャストする。（プレーがおきるひとつ前のタイミングで良いポジションに移動）
- 次に起こりうるプレー（ショット、ドライブ）をカバーするためのポジションをとる。
- プレーヤーがリングにドライブを始めたとき、そのドライブは逆にステップ（**クロスステップ**）をすることでオープン・ルックを確保する。
- **ボールマンのつま先を視野に入れるようにし**、3or2の確認も含め、正しい位置どりを意識する。

スクリーンプレーの理解

バスケットボールにおける「スクリーンプレー」とは、バスケットボールの基本戦術の一つとして、チームで連携してノーマークのプレーヤーを作るプレーとして非常に有効なものです。

ボールマンに対してスクリーンをかけるオンボールスクリーンは、最も基本的なスクリーンの形です。そこから発展して、「ピック・アンド・ロール」などのプレーにもつながります。

ボールのないところで行われるオフボールスクリーンには、大変多くのパターンがあります。

審判としてルールを理解は当然ですが、判定をしていくうえで、バスケットボール技術（スクリーン）の理解を深めることも、審判技術を向上させるために、大切な要素になります。

動きの速いバスケットボールのゲームの中では、審判の判断にゆだねられることが多いのも事実です。スクリーンを行う側、それを守る側、両方の視点で適切に判定することが求められます。

本年度は、「スクリーンプレイの理解」を重点的に確認し取り組んでいきましょう。

